

われるドレスで、全体に施された波打つプリーツが特徴とされる。

4) ポール・ポワレが1906年に発表したハイウエストドレスで、女性をコルセットから解放した、ファッション史上で最も革新的な発表であったと言われている。

5) 阿佐美淑子 2018「マリアノ・フォルチュニ異国趣味——日本の意匠を基点として」鹿島美術財団年報 / 鹿島美術財団 [編] (36)(別冊)、p. 474 参照。

6) 朝倉三枝 2019「20世紀初頭のファッションにおけるマリアノ・フォルチュニの革新性」展覧会図録、p. 225 参照。「マルセル・プルースト [1871-1992]」の長編小説『失われた時を求めて』の中で、デルフォスは部屋着として描かれていた。なぜなら、19世

紀末頃からフランスでもコルセットを着けずに着物やティーガウンなどを部屋着として着る流行が現れてはいたものの全身を包む繊細なプリーツがボディーラインを拾い、その身体性を際立たせたデルフォスは、あまりに官能的だったからである。」

7) 2016年春夏オートクチュールコレクションで、「ヴァレンティノ (Valentino)」の Maria Grazia Chiuri (マリア・グラツィア・キウリ) と Pierpaolo Piccioli (ピエールパオロ・ピッチョーリ) がフォルチュニの生地を使用して、「デルフォス」の現代版のドレスを打ち出して話題になった。フォルチュニ社は今も当時の製法で綿素材のテキスタイルの製造販売を継続しており、購入することも可能である。

ヨーロッパにおけるエコロジーとファッション

アムステルダムミュージアム、Fashion for Good が示すこと

国際ファッション専門職大学 河西瑛里子

1 はじめに

ヨーロッパでは「エコ」が流行っている。もともと環境規制の基準が厳しく、自然エネルギーへの関心も高かったが、ここ1年ほどはプラスチック製品の使用に厳しい目が向けられるようになった。私が調査をしてきたイギリスのグラストンベリーでも、エコバッグの推奨はもちろん、癒しの水が湧き出ていることで知られる泉の管理団体が、水を持ち帰るために販売しているボトルを、2019年の8月にはプラスチックからガラスに切り替えていた。同じころに開かれた女神運動 ([河西 2015] 参照) の新月の儀式のなかで、10人ほどの参加者が何か今後の決意表明する際に、「もうプラスチックは使いません!」と宣言した。ロンドンなどの都市部では、2018年に結成された温暖化や気候変動を訴

える市民運動のエクスティンクション・レベリオン (Extinction Rebellion、通称 XR、日本語での詳細は [鈴木 2019] 参照) がしばしば橋や道路を封鎖するようになり、市民生活に支障を及ぼすことで、その存在感を示していた。

全産業のうち、石油産業に次いで環境を汚染しているとされるファッション産業においても ([大倉 2019] 参照)、環境に配慮する動きが広がっているのは周知の通りだ。太陽や風など自然エネルギーを利用し、環境に負荷をかけないように染色した綿100%のTシャツを販売する20代の女性に出会ったのは、2018年7月のグラストンベリーの市場だった。同年8月に町のホールで開かれたヴィーガン¹⁾・フェスタ (Vegan Festa) においても、食品だけでなく、廃材になったタイヤを再利用したベルト、犬のリード、サン



写真1 タイヤを再利用した商品
(2018年8月26日筆者撮影)

ダル、アクセサリが販売されていた。若竹を湯で柔らかくして、つぶして繊維にし、紡いだ糸でつくった靴下や衣料品も販売されていた。販売する40代の男性によると、ビジネスを始めた2000年ごろはヒッピー風の衣料品が中心だったが、現在では一般の人も着られるような衣料品が増えてきているとのことだった。

環境保護運動といえば、かつてはヒッピーなど、オルタナティブなライフスタイルとリンクさせてイメージされがちであったが、現在では主流社会の1つの潮流になりつつあることを実感させられる。

2 Fashion for Good

良い素材 (Good Materials)

良い経済 (Good Economy)

良いエネルギー (Good Energy)

良い水 (Good Water)

良い生活 (Good Lives)

この5つのGoodが良いファッション (Good Fashion) に不可欠、という理念を掲げるのは、オランダの首都、アムステルダムで2018年10月に開館したFashion for Goodだ。ここでは、環境と社会の両面から、サステナブル、つまり持続可能なファッションについて考える、世界初のミュージアムである (入場無料)。展示品



写真2 博物館の外観
(2019年9月2日筆者撮影)

を見る伝統的なスタイルの博物館とは異なり体験型のミュージアムで、理念に共感する個人や企業と協働するためのスペースでもある (詳細は当館の公式ホームページ参照)。1841年にオランダで創業したファストファッションのチェーン、C&Aが設立を支援し、アディダスやシャネルといった企業もパートナーとして名を連ねている。

以下では、地階、1階、2階に分かれる、各ブースの展示を説明する。展示の説明の言語は、英語とオランダ語の併記か、英語のみであった。国外からの多くの訪問者を予想していたこと、英語が流暢なオランダ人が多いことが、その背景にあると思われる。

3 地階

1階の受付を通り過ぎ、階段を降りた訪問者の目にまず留まるのは、産業革命の始まった1700年代からこのミュージアム開館までのファッション史のパネル「A Short History of Good Fashion」である。反毛皮キャンペーンなど環境関連の事項の他、技術革新による大量生産、ヨーロッパ域外への工場移転、低賃金や児童労働の問題、バングラデシュの縫製工場の崩壊事故など、ファッション産業の問題点が簡潔にまとめられていた。

このパネルの奥の部屋は、Tシャツを事例として、ファッション産業の問題点について

学べるブース「The Journey of a T-shirt」である。Tシャツは製造工程が単純で安価であるため、1-2回着てすぐに捨てる人も多く、最適な事例らしい。デザイン性の高い文字と絵や図による説明だけでなく、綿や布といった実物も展示されている。Tシャツの原料の1つである綿の栽培には大量の水、有毒の肥料、殺虫剤が使用されていること、もう1つの原料であるポリエステルは石油製品であること、世界の水質汚染の原因の20%は染色の過程で発生していることという環境問題の他、縫製工場の従業員の賃金は小売価格の0.6%に過ぎないこと、売れ残りは廃棄処分されることといった社会問題についても言及されている。

室内の一画では、サステナブル・ファッションに関する6本のドキュメンタリー、*The Human Element*、*23-29th April*、*Fashion Revolution Week*、*The True Cost*、*Driving Fashion Forward*、*Maiyet*が、それぞれ一部、上映されていた。

4 1階

階段を上がり、1階に戻ると、「Design Studio」がある。白いTシャツを着たマネキンが、スタジオの中央のパネルの後ろにぽつんと立っている。頭部はなく、背後に映る断片の繰り返しから成るデジタル画像と合わせ



写真3 サステナブルなTシャツを
デザインできるスタジオ
(2019年9月2日筆者撮影)

て、シュールな印象を受ける。

ここでは、デジタル技術を用いて、さまざまな画像やロゴをカスタマイズすることで、オリジナルのTシャツをデザインできる場だ。私もパネルを操作して、体験してみた。背後の白い壁に投影される画像の一部が、中央のマネキンのTシャツに映し出される。画像だけでなく、画像の切り取り方も選択でき、サステナビリティを意識した言葉も選んで入れるようになっていた。20ユーロ(=約2400円)払えば、実際にプリントされたTシャツを購入することができる。

5つのGoodを意識し、100%の有機綿、再生可能エネルギー、安全な化学薬品と染料により、生産されたTシャツはコンポストできるほどサステナブルだと謳っている。こ



写真4 TIPAの開発した生分解性のプラスチック様の袋が分解されていく様子
(2019年9月2日筆者撮影)

表1 展示にあったサステナビリティに貢献している企業

企業名	国名	商品、サービス
○透明性と追跡可能性 (Transparency and traceability)		
Good on You	オーストラリア	2000社以上のブランドのエシカル度を評価するアプリ (goodonyou.eco) 開発
Bext 360	アメリカ	原材料と製品を生産場所から店頭まで追跡
circular.fashion	ドイツ	衣料品、生地、繊維を無駄にしない方法を可能にするツールを作成
&Wider	オランダ	携帯電話やクラウドを用いたファッション産業従事者の労働環境とウェルビーイングを向上させる仕組み
○原材料 (Raw Materials)		
Frumat	イタリア	リンゴの皮からつくった革製品のような素材
Spinnova	フィンランド	木材パルプを直接、繊維化
Ecovative	アメリカ	マッシュルームの菌床由来する素材 (Mycoflex)
Mango materials	アメリカ	メタンからつくったサステナブルな代替ポリエステル
Flocus	中国	カポック (kapok) という樹木の乾燥した果実の天然セルロース繊維由来の糸
Provenance	アメリカ	革に相当する次世代素材
Green Whisper	フランス	バナナからつくったサステナブルな布と紙の製品
○染色と仕上げ (Dyeing and Finishing)		
Nature Coatings	アメリカ	樹木を原料とするバイオ染料
ColorZen	アメリカ	綿の染色過程を効率化、サステナブル化 (綿は染色しにくいいため、水、熱、有毒な化学染料を多用)
Pili	フランス	砂糖を発酵させ再生可能で長持ちする染料に変容
We aRe SpinDye	スウェーデン	ポリエステルの染色に使用する水と化学薬品の量を削減
BioGlitz	アメリカ	ユーカリからつくった生分解性のグリッター
Nano Textile	イスラエル	定着過程で超音波と特別な化学を利用し、水と化学薬品の使用を削減
○製造 (Manufacturing)		
Natural Fiber Welding	アメリカ	天然繊維を繰り返し使用できる技術
SeaChange Technologies	アメリカ	簡単な工程で、化学薬品と不純物を除去する方法を開発
Tamicare	イギリス	アパレルと履物のための、世界初の完全自動 3D 印刷技術 (Cosyflex)
Reverse Resources	エストニア	製造過程で余った布を計測・追跡し、有効活用するシステム
○小売り (Retail)		
TIPA	イスラエル	プラスチックのような触感で、プラスチックのように見える生分解性パッケージ
Gibbon	オランダ	旅行者向けのレンタル市場。荷物を軽量化して二酸化炭素放出を削減、旅行中の衝動買いを最小化
Normn Hangers	オランダ	サステナブルなハンガー (紙の繊維を圧縮、100%リサイクル可能)
Paptic	フィンランド	再生可能なバイオ素材 (木の繊維が原料)、プラスチックのパッケージへの置換を意図
○最終用途 (End-of-Use)		
The Renewal Workshop	アメリカ	衣料品を新品のようにするサービス (擦り切れたものを直す)
Yerdle Recommerce	アメリカ	ブランドの買戻しと再販
The Infinited Fiber Company	フィンランド	綿、ヴィスコース、紙ごみを繊維にする、リサイクルの技術

のようなIT技術を用いたデジタル印刷は、伝統的な染色より環境に優しく、販売のため店舗にマネキンを用意したり、実際の服をストックとして準備したりする必要がなくなる。ファッションショーにも活用できるそうである。

5 2階

最上階では、表1のようなサステナビリティに貢献している企業28社が、透明性と追跡可能性、原材料、染色と仕上げ、製造、小売り、最終用途の6つに分けて、丁寧に紹介されている。リンゴやバナナの皮から新素材をつくり出す、FlumatやGreen Whisperの技術は、身近で不要なものを利用しているところに面白みを感じた。TIPAが開発したという、生分解性のプラスチック



写真5 デジタル技術を用いたアニマルプリント
(2019年9月2日筆者撮影)

様の袋も、実際の分解過程が示されていて、興味深く感じた。その一方で、こういった新技術や新素材にかかるエネルギーやコストが示されていないかった。

その隣のブースでは、サステナブル・ファッションに携わるブランドの代表者やこの博物館の共同創業者のウィリアム・マクダナー(William McDonough)²⁾からのメッセージが印刷され、天井から吊り下げられたカラフルなバナーが展示されている。

他にも Calvin Klein のコレクションで披露されたこともあるデジタル技術を用いたアニマルプリントの衣装 [cf. Fernandez 2016] や、協賛企業の1つであるアディダスが開発した100%再生可能なスニーカーなども展示されていた。

6 再び、1階

最後に1階に戻ると、「The Good Shop」と名付けられたショップがある。3か月ごとにテーマが設定され、商品は総入れ替えされる。私が訪れた時は、染色をテーマとし、表2に示す6社の商品が展示・販売されていた。環境に負荷をかけにくい染料を使用した商品(Audley Louise Reynolds)の他、染色の効率をあげた商品(Tommy Jeans)、染色そのものをしない商品(Adidas, Popupshop)、新素材を利用した商品(Rombaut)、再利用された素材を利用した商品(Fjällräven、

表2 ショップで展示・販売されていた商品と企業名

企業名	国名	商品
Adidas	ドイツ	染色しないスニーカー
Audley Louise Reynolds	アメリカ	鉱物、海藻、イカ墨、サンゴ、貝殻、プランクトン、花、土などから開発した独自の染料を使用した衣料品
Fjällräven	スウェーデン	ペットボトルをリサイクルしてつくったバックパック
Popupshop	デンマーク	デジタル印刷された衣料品
Rombaut	フランス	木の幹、天然ゴム、綿、セルロース、ココナッツの繊維といった新素材を使用した衣料品
Tommy Jeans	オランダ	リサイクル綿と布の切れ端を生地として使用し、藍染めの吸収と定着を100%としたジーンズ

Tommy Jeans) である。

7 おわりに

このミュージアムは、社会や環境に関する問題を学び、解決のために協働していく場である。ファッション産業は環境と社会に関する問題を抱えこんでいるが、改善への試みが多方面からなされていることを知った。見学後、受付にて持続可能なファッションに関する書籍を購入したのだが、レシートをメールで送信するなど、些細な部分まで「エコ」にこだわっている様子が伺えた。

このような「環境意識の高さ」はヨーロッパではしばしば遭遇する。2015年の夏にドイツで開催されたある学会（〔河西 2016〕参照）では、ウォーター・サーバーが設置されていた。参加者には使い捨ての紙コップではなくプラスチックのマイ・コップが配布され、資源保護のためだと説明された。しかし、欧米ではよく見かける光景だが、トイレに設置されたペーパータオルを、ヨーロッパ人を中心とする参加者は惜しげもなく使い、違和感をあらわにする日本人研究者もいた。

「エコ」を謳いつつ、同時に「エコ」とは思えない状況がある。2019年9月に訪れたオランダのこのミュージアムでも、トイレにはペーパータオルが置いてあり、同様の矛盾を感じた。オリジナルのTシャツの作成の場で、背後に同じデザインを投影することはエネルギーの無駄遣いに思え、そもそもそこまで染色が問題なのであれば、デジタル印刷もせず、白いTシャツをそのまま着ればよいではないか。新素材の開発をする前に、戦前のように手持ちの服を長く着回せばよいではないか。

しかしながら衣装は、身体保護の役割にとどまらず、他者との差異化といった社会的役割も担ってきた（山田・小磯編〔2019〕参照）。つまりファッション産業は、「白いTシャツ」を、個々人の嗜好や社会の伝統に染め上げて、

人々の「欲望」を満たしながら発展してきた。また服が売れなければ、産業自体、成り立たなくなる。

意味的に対立する句を1つに連結させた文節のことを、哲学者の藤野寛は「交叉語法（キアスム＝絡み合い）」と呼んだ³⁾。矛盾を内包する「サステナブル・ファッション」も、こうしたキアスムの1つのように思えてくる。

<注>

1) ヴェジタリアンとは異なり、卵や牛乳、蜂蜜など、動物由来の食品を摂らない主義のこと。食品に限らず、動物の革や毛皮を使った衣料品やカバン、動物実験がなされた化粧品を避けるなど、動物性の素材を避けて生活している。健康志向というより、動物愛護や環境保護の精神に基づいて実践している人が多い。

2) アメリカ人の建築家でデザイナー。『サステナブルなものづくり——ゆりかごからゆりかごへ』（2009、人間と歴史社）にて、共著者とともに「ゆりかごからゆりかごまで（Cradle to Cradle, C2C）」、つまり商品に使用された資源をごみとして捨てるのではなく、再利用するという考え方を提唱した。

3) 藤野は、フランクフルト学派の論客、テオドール・アドルノらが述べた文化産業論について、「絵画や音楽といったドイツ的な意味での「文化」とは、近代社会の象徴である「産業」と対極にある歴史的・民族的な概念であったとし、アドルノらはこの対極的な、本来結びつきようのない単語が奇しくも結びついた文化産業という用語そのものに新規性や挑発的な意味合いを込めたのだと述べている」〔門田 2013：28〕。

<参考文献>

- 門田岳久 2013『巡礼ツーリズムの民族誌——消費される宗教経験』森話社。
河西瑛里子 2015『グラストンベリーの女神たち

- イギリスのオルタナティブ・スピリチュアリ
ティの民族誌』法蔵館。
- 河西瑛里子 2016「資料と通信——ボランティアの
目から見た第21回国際宗教学宗教史会議」『文化
人類学』80(4): 642-646。
- 山田孝子・小磯千尋編 2019『文化が織りなす世界
の装い』英明企画編集。

インターネット資料

- 大倉瑤子 2019「ミレニアル世代は脱プラスチック
ブランドを支持」『Business Insider』
<https://www.businessinsider.jp/post-184628>
2019年12月5日閲覧。
- 鈴木恵麻 2019「“Extinction Rebellion Japan (XR
JAPAN)” 活動紹介」
<http://shukusho.org/data/45suzuki.pdf> 2019年
12月5日閲覧。
- Fashion for Good 公式ホームページ
<https://fashionforgood.com/> 2019年12月6日
閲覧。
- Fernandez, Chantal 2016 “Calvin Klein Pumps Up
the Volume for Fall, with Animal Prints, Cutouts
and Floating Stones: What to wear if you're a
quirky art teacher, but also an austere minimalist,”
Fashionista
[https://fashionista.com/2016/02/calvin-klein-fall-
2016](https://fashionista.com/2016/02/calvin-klein-fall-2016) 2019年12月6日閲覧。